

山口新聞 西流東流

トピックス

8

ためになる過去記事

1



秋葉 良和

東流西流

ギャップを楽しむのは面白い。40カ国以上の国とビジネスをしてきましたが、地域ごとに文化、思考や嗜好、そして道德感の違いが存在します。海外旅行では見えないGAPが、実際の損得が生じるビジネスをしてみると如実に表れます。

文化GAPの面白さ

例えば国土の広い中国。地域ごとに気候、好まれる料理、ビジネス感覚が全く異なります。同様に東南アジアにおいては人件費も上がり、1人当たりのGDPも上昇。以前は「世界の工場」だった国がいつの間にか

好きな社長家に関わる

2



秋葉 良和

東流西流

イタリアが好きである。イタリアと日本にもさまざまな共通点とGAPがあります。例を挙げると食文化。過去多くの顧客のイタリア出張をアレンジしましたが、食に厳しい年配の経営者をお連れした際も、全ての料理に満足だった様子で終始「機嫌でした。また、バスターアルデンテの感覚を分けるのは日本人

イタリアとのGAP

日本のそののしが分かる。この場合はせかしめるのはイタリア人。麺文も無駄。これも連たと刺化で味の繊細さを求めるしんてしまつのも手。共通点かもしれ。四角四面のアプローチは好まらず、ゆとりや遊び心が好まれるイタリアスタイルには大きなGAPがある。ミラン在住時には、『スー』と驚くことも。イタリア文化を愛するものは、口座開いたため約束の時間に銀行に出向くと担当者風邪で休み。この場合は後日出直してきてくれとなります。スーパーのレジ長蛇の列。店員と常連客のおしゃべりによるも

（東京都、会社経営・下関市海外ビジネスアドバイザー）

3



秋葉 良和

東流西流

中国に駐在した数年間は人生においても大きな刺激となりました。中国は国土も広く大陸的な思考アプローチ。「まずやってみる。問題が発生したら対応方法を考える」。日本は「問題を事前に列挙しよう。費用対効果を最大限に考慮しよう」というアプローチ。日本方式はリスクを最小限に抑えられるものの、将来の成功の芽を摘

中国とのGAP

むこともあります。一方、中国方式ではリスクは大きいものの、成功するプロジェクトが複数出る場合もあります。新規出店のアプローチも考察。俯瞰の目を用い、アジアの中の日本という立ち位置を認識すること。日本ではまず「店舗をオープン。状況を見ながら」の2号店出店を繰り返します。中国ではまず複数の店舗を同時にオープンし、消費者的目を引きつけながらさらなる拡大を検討するというパターン。どちらが正しいのかはわかりません。しか

（東京都、会社経営・下関市海外ビジネスアドバイザー）

4



秋葉 良和

東流西流

「成長市場」と「成熟市場」という概念。私の大学講義や講演会でよく用いる比較です。かつての高度成長期の日本のように人口も増え経済も大きく発展した中での状態が「成長市場」。現在のインドや東南アジア等の勢いのあるエリアが当てはまります。一方、欧米や現在の日本が当てはまるのが「成熟市場」。

成長と成熟のGAP

成長市場は高度文化や法律の変化。成長市場は現在のアジア各国やインド、アフリカなど。その経済発展は驚くほど早く、日本の10年の変化がこれらな手法で海外戦略を進める場合が多く、成功しづらい結果になっています。このGAPを意識するだけでも成功率が格段に高まるのでは？

（東京都、会社経営・下関市海外ビジネスアドバイザー）

「バンドと木犀川」中学校吹奏

トピックス

場合、東京の企業
の企業も同じ日本
決断の速い地方
フー企業はスピー
求められる昨今の
世界のビジネス
シーンにフィット
ししますし、直
接間接コストの
低い地方企業は
圧倒的に優位
より魅力的な提
案が可能だ。た
地方の企業は海
外顧客へのフレ

ルチャー・マガジンを
開設します。国内外とオ
ンラインでつながり意見
交換ができるカルチャー
センター。国家資格が取
得できるドローンスクー
ルも。若者と共にドロー
ン農業散布やLED栽培
などAI農業を考え、後
継者不足に悩む農業の活
性化やドローンの産業利
用を考えます。国道19
号線海沿いを楽しむバ
イカーやドライブがく
つろげるカフェ。山口か

松だけではなくは
(美祢市 美祢魅力発
掘隊隊員)